
チートな悪魔

みや

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

チートな悪魔

【Zコード】

Z2640V

【作者名】

みや
や

【あらすじ】

神なのに働かなかつたら人間界に落とされちゃいました。てへ人間界で働くことになつたラサは仕方なくお金を稼ごうとするがアレだね、だるいね

ちなみにチート系主人公です。嫌いな人は戻るをお勧めします。

廻された神（前書き）

処女作「じゃ無いけど糞みたいなシナリオに逆に凄いーと思つたんですけども、文才無さ過ぎただって、あはははは

堕とされた神

俺は神だ

まあ正確には「神だつた」が正解だが
一体全体どうなつてるやら……

目の前に広がつてゐるのは

人間界だつた

『聞こえるか、ラサ』

頭の中に直接声が響いてる
ついでにラサとは俺の名前だ

本名はラサ・クロス

まあそんなことは置いといて

『おい！何で俺が人間界にいるんだよ！…』

一番気になる質問をする

『ラサ、最近のお前はだらけ過ぎだ』

『それが？』

何言つてるんだ？こいつ

俺は神だぞ？だらけて何が悪い

『お前はもう忘れたのか？』

忘れた？何を？

『俺が何を忘れたんだ？』

『はあ～、お前は1ヶ月前に言つたことを忘れたのか？』

はあ？

1ヶ月前？

何かあつたか？

全く思い出せないのだが……

うるせーな！俺が働きやいいんだろ！信用ねーなら俺が1ヶ月働かなかつたら人間界だらうがどこだらうかに落とせばいい

ふと頭の中に自分の台詞が……

『つつつつ！』

『思い出したか？』

『何が望みだ？』

『いや、お前に何も望んでないから。簡単に言つと人間界に百年追放つてことだ』

『はあ？ 何で俺がこんなところにいなきゃならんのだ…』

ブチッ

切りやがつた……

通信切りやがつたな！

神は死なないから百年は短いんじやないかつて？

イヤ無いから

不老不死でも長いもんは長いから

ああ～うぜー

まじ何であんな事言つたんだ？

イライライライライライライライライライライライライライ

イライライラ

つて感じになつてるところ殺氣を感じたのかドラゴン様がいるではありますか……

GYAAAAAA

と叫びながら襲つて来るじゃありませんか
(そういういや最近狩りもしてなかつたな)

まあこの可哀想なドラゴン君をストレス発散の道具にしますか
頭の中でシミュレーションをしていると何かだること言つこと云ふ

がついた

俺は愛用の剣を使い一閃

はい、終了

つか予想より弱いな

神界のドラゴンが強いだけか？

まあどうでもいいが

今気づいた

金が無い

やられた

あいつら俺を人間界で働かせる気か？

くそっ！

大抵の物は創れるが食べ物は作れない……
取り敢えず城下町にでも行くか

一応神だし人間界の地形は簡単に覚えてる
テレポート

はい、到着

あつさりしそぎだつて？

いやいやあそこ神の神域とか謎の場所だからな出るのに少なくとも
三話はかかる。

ついわけでテレポートを使いました、てへ

べ、別に急かつたんじやないヨ
取り敢えずギルド探すか……

廻された神（後書き）

携帯投稿だるいね。長くしようかなと思つたけどだるこのでしのま
ま載つけます。

初めての依頼（前書き）

今回はPCからの投稿です。内容はすこし悪くなつたけど默作には変わりないぜ（キリッ

初めての依頼

なんで神なのに人間の世界でギルド探してるんだろ……
はあ～

心の中でため息が漏れる
さてとギルドはどこかな？

ちゃちゃっと大金稼いで残りの時間を楽しみますか
実際こんな機会でもなければ人間界なんて絶対に来ないし……
まあ来たからには楽しもう

なんて考えていたらギルド発見！
さっそく中に入るか

ガチャッ

ドアを開けるといかつい人たくさんいるな
別にいかつくない人もいるが
でもぱつと見どもいかつい人がインパクトでけれ
まあそんなことはどうでもよくてギルドカード発行しなくちゃ
受付に向かい

「すみません、ギルドカード発行してもらえませんか？」

「はい、ではこちらにお名前と住所をお書きください」

そういうて差し出される紙を見て困った
住所か……

この世には無いんだが……
まあいいか、適当に書いちやえ

「こちらがギルドカードです。紛失した場合、再発行する際に銀貨5枚必要なのでくれぐれもお気をつけ下さい。ランクについてのご説明しますか?」

「いえ結構です」

流石にこれでも神なのだ

そのくらいの事は知つていて

しかもぶっちやけランクはあまり関係ないし……

ただ自分より上のランクの依頼を30個受ければ平均のランクにつくランクが上ると特典ボーナスがある

というぐらいかな

今の俺のランクはF-であり最低ランクだ

さて早速依頼でも受けよつかな?腹減ったし

俺は依頼が張り出されている掲示板を覗き込み一番報酬が高いものを選んだ

その内容はSSS+(最高ランク)であつたがぶっちやけ俺にはあんま関係ないし

内容はこの世(つまり人間界)で貴重とされてる鋼ドラゴンの内臓をとつてこいといつものだった

鋼ドラゴンの内臓は薬に使われたり超高級レストランで一年に5度振舞われるだけというかなり貴重なものだった

「これを受けたいんですが……」

「これですかー?お言葉ですがF-の方には無理かと」

「大丈夫、大丈夫」

この依頼を受ける受けないで長くなつたが粘つてやらせてくれる事にした

セヒとテレポートつと

いるねえ、いるねえ

そう今俺は鋼ドラゴンの村（？）らしきところに来たのだ
さてと一番内臓に被害がでないのは何だろ？

やっぱ風で切り刻むか？

よしーそれでいこう！

瞬間鋼ドラゴンから一斉に血が吹き出した
無詠唱の魔法、それも上級魔法だ
まあ本来ありえないのだが、まあ神だし？

「セヒと、内臓 内臓」

ふう

これで三十体はいた鋼ドラゴンの内臓を手に入れたわけです

ふふふ、 楽勝 楽勝
セヒとテレポート

「」んなに……
「ありえん……」
「嘘だろ……」

などと聞こえたが無視

受付に置くと凄かつたね

なんかギルドの偉い方まで押し寄せちゃってね

なんか会議みたいの開き始めちゃったよ

それから數十分

「す、すみません！まさかこんなに大量に持つてくるとは思わなかつたので報酬の準備が出来てません！」

「で、いくらなの？」

「は、白金貨10枚です」

「」お金についての解説です

白金貨1枚が金貨100枚

金貨1枚が準金貨60枚

準金貨1枚が銀貨50枚

銀貨1枚が準銀貨40枚

準銀貨1枚が銅貨30枚

銅貨が一番価値が小さいお金である

ちなみにこの国の成人男性が一生で稼ぐお金は約金貨50枚らしい

日本円に換算すると金貨50枚＝2億円だね

つまり白金貨10枚はかなりの大金である

あれ？

100年遊んで暮らしてもお釣りができるような……

よし！ぐーたらするか

と思つたら

「すみません、今は白金貨1枚しか渡せませんがよろしいですか？」

「ん？OK・OK。あとできれいな小銭にしてくれるかな？」

「かし」まつました

そして大金を手に入れた俺は食住を満たすためにそちらのレストランで昼飯を食つてから不動屋さんに行く
さあて家を買えばこっちのもんだ

「どんな家をお探しで？」

「どんなとこでもいいけど、取り合えず一番速く住めるといいで」

「値段が高いですがよろしいですか？」

「いいですよ」

とこなんどーでもいい話は済ませた

後は百年たつまでのんびりといこうかな？

食つて寝て食つて寝て……

太りそうだな……

しかも暇そうだな

どこかで暴れたいな

まあいいか

つかさ、俺神だから神と人間の力の差を教えてやるか？

そんなことを考えていた

まだ住めないのでホテルに泊まるのだがね

暇だし明日もギルド行くか

もつと金を手に入れて世界旅行でもすつか

それ名案じやね？

はい、この意見採用

世界回るんだつたら白金貨100枚は欲しいな

よし、やるか

そんなことを考えながらいつのまにか俺は寝ていた

チュン チュン

眩しい……

もう朝か

なんてテンプレ通りな朝の目覚め方だろ？

飯を食つた俺は今ギルドに向かつてるのであつた

俺が入ると従業員が金の催促だと勘違いしたのか皆一斉に頭を下げ

「誠にすみません！まだお金の準備ができていません」

「いや金の催促じゃなくて依頼を受けに来たんだが」

俺がそういうとホッとしたような表情とまた大金を稼ぐ気かという不安の顔になつていた

見ている分だと實に面白い

さてと何を受けようかな？

見てみると「ゴブリンの始末」というのがあった

ランクはB+ 報酬銀貨30枚

よしこれにしよう

昨日と同じく手続きをし早速狩に出る

テレポートの移動も飽きたしな……今日は飛ぶか

ギルドをでるなりいきなり飛翔魔法をつかい目的地をめざした

うわーいるねえ

たくさん、群れで

なんであんなに固まってるんだよ……

今回は楽勝か？

と思い空中からしたに向かい光の粒子が渦になりつつりをまとめてハツ裂きにした

終わつたか？と半ば確信し見てみた

たしかに全滅している

全滅してるんだがまたどこからとも無く現れてくる

なんでやねん！

なら押しつぶすか

グラビティ・ゼロ

かなりの広範囲の敵を押しつぶす魔法だ
確かに効いている
だがまた現れる……

流石にきりがないな

原因解明に挑みますか

サーチ

近くにある目に見えない敵や物を探す魔法
すると反応あり森の影に隠れていて目視はきついが今俺には見えて
いる

近くによるレプリカ生産期があいてあつた
なんでこんなもんが落ちてるんだよ

まあ破壊するが

さてこれでもう出てこないだろ

俺は剣を構えゴブリンの群れに向かって一振り

するとゴブリンたちは体の上と下が真つ一つ
そして消えていく
なるほど

レプリカだからか
本来ゴブリンを殺すと死体が残るのだが今は消えている
さてと帰りますか
もちろんテレポートで

飛翔魔法は？つて？飽きた

さて狩つてきた証拠を見せ依頼達成した
ふう今日も人間界は平和だな、多分
さてと予想より時間がかかったが次の依頼に取り掛かりますか
次の依頼は「岩石撤去」

ランクはあんま関係無しで力があるもの 報酬準金貨一枚
さて毎度おなじみテレポートで移動

そこには土砂崩れでもしたのか岩がごろごろ転がっていた
これをどこに運ぼうかなと思い結局奥に置いとくことにした

ウイズ・ワイング

物体に羽をつけそのまま特定の場所に移動させる魔法
こんな魔法を使つたおかげで三十分たたずに終わつた
さてと、報酬報酬

よし！金が手に入った
が、ぶっちゃけ少ねえ

なんか高いの受けるかと思い掲示板を見るとあつたよ面白そうな依

頼が
よし、
これを受けるか

初めての依頼（後書き）

3000文字だって短いね
まあしかたない
だって文才が無いんだもん！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2640v/>

チートな悪魔

2011年10月9日10時12分発行